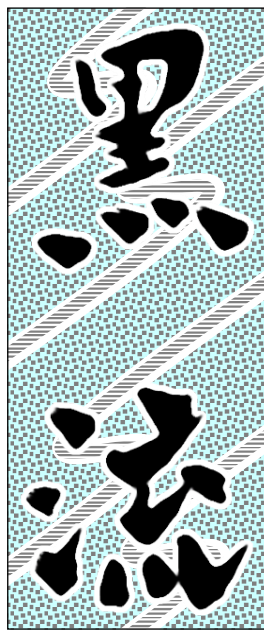




第75回 体育大会

雲外蒼天と絆と団結の
先に栄光あり



6月13日、

第75回体育大会が開催された。コロナ禍の影もうすらいだ今年は、好天に恵まれたが、当日は最高気温35℃を記録し、熱中症への注意を呼び掛ける放送が幾度も流された。生徒は、焼け付くような暑さに反抗するかのよう競技に応援にと汗を流して

R6 町内版 第1号

発行：富山県立入善高等学校

放送広報部

電話(0765)72-1145

ホームページ

<https://www.nyuzen-h.tvm.ed.jp/>



いた。

毎年注目を集める各団のマスケットパネル。赤団は「ワンピース」、青団は「呪術廻戦」、白団は「銀魂」と、いずれも人気漫画の登場人物をモチーフにした作品となった。どの作品も力強くワクワクする作品に仕上がった。

3年生男女によって行われた「タイヤで勝負」。晴天続きで乾ききったグラウンドからは大量の砂煙が舞い上がった。視界をさえぎ



マスケット制作の様子

るほどの砂埃の中を猛進する姿には、最上級生らしい頼もしさを感じられた。

昨年初めて実施された部対抗リレーは、今年も大いに盛り上がった。各部の威信をかけて走る「競技部門」では、体育大会で見られないドリームマッチに大きな歓声があがった。「パフォーマンス部門」では各部の個性輝くパフォー



マンスに笑顔と拍手がおくられた。

【第75回体育大会結果】

競技の部 総合優勝 赤団

リレーの部

総合リレー 優勝

赤団 (Aチーム)

女子400mリレー 優勝

白団 (Aチーム)

男子800mリレー 優勝

赤団 (Aチーム)

マスケット賞

赤団



部対抗リレー(競技部門)

青団が全部門で優勝を独占した昨年とは一変し、今回は各団が僅差で競り合う展開となった。総合優勝は赤団が獲得したが、個人競技では白団の活躍が目立った。コロナ禍をきっかけに競技種目や内容は大きく変わったが、来年はさらに充

実したものとなるよう努力を続けたい。

(放送広報部 中塚麗人)

▼赤団団長の青木寅泰君にインタビューしました。

赤団の目標は「楽しむこと」でした。楽しむことで優勝もできると考えていました。団員みんなが楽しめるように団リーダーのみんなと協力して工夫しました。たくさんの方の人数をまとめるのは初めてだったのでわからないことが多かったけど、協力することで頑張ることができました。本番はとても暑い中、団全員が大きい声で応援をしてくれてどの団よりも盛り上がっていたと思います。結果として三冠をとることができて最後の体育大会がとても楽しい思い出になりました。協力してくださった団リーダー、団員の方、先生方には感謝の気持ちです。ありがとうございました。





【課題研究発表会】

7月12日(金)、3年生の課題研究発表会が実施された。中間発表で指摘されたことを改善し、放課後も残って取り組んでいた。今年も、「ボウリングでストライクを出す方法」「瞬間冷却保存剤の制作」「美肌になるために」「席替えで好きな人と隣になるには」など、興味をそそる発表やほほえましい発表が続いた。



【センター実習】

7月17日(水)、2年生の自然科学コースの生徒全員が総合教育センターで、物・化・生・地に分か



れて実験に取り組んだ。物理班は可視光線の波長の測

定や空き缶分光器の制作、化学班は水に溶解している各種イオンの定量や医薬品の合成、生物班は、カエルの解剖や血球・筋肉の観察、地学班は微化石の採集と標本作りなど、どの実験も学校ではなかなかできない実験であり貴重な体験となった。この行事は自然科学コースとして最初の活動であり、誇りをもって取り組んでいた。

農業クラブ田植祭

5月31日(金)、学校農場にて、農業クラブ田植祭が行われた。レクリエーションでは農業科教員に関するクイズを実習当番班ごとに解き、親睦を深めていた。

その後、秋の収穫を期待しつつ、班ごとに焼肉に舌鼓



を打っていた。

校内農業鑑定競技会

6月27日(木)本校農業実験室にて、校内農業鑑定競技会が行われた。農業科全学年が参加し、生徒は制限時間20秒の中で集中して各問題に取り組んでいた。代表1名が10月23・24日に岩手県で行われる全国大会に出場する予定である。



各種交流行事

5月2日(木)、入善小学校2年生と農業科2年生がミニトマト苗を植える交流会を行った。定植後、体育館で一緒にゲームをして関係を深めていた。秋には花苗を植える交流会が予定されている。

6月18日(火)、新川むつみ園で農業科3年生7名が交流会を行った。新川むつみ園玄関前の花壇に花苗を定植し、関係を深め



小学生とともにミニトマトの苗植え

7月9日(火)、いかわ総合支援学校と農業科2年生が交流会を行った。感染症流行の影響から5年ぶりの開催となった。各作業班に分かれて、交流を深めていた。



校内意見発表会

6月6日(木)、本校体育館にて校内意見発表会が行われた。緊張しつつも堂々とした態度で発表した。本会の優秀者3名は、7月25日(木)南砺福野高等学校で行われる富山県大会に出場する。



観光ビジネスコースでは、「地域を学ぶ、地域で学ぶ」をテーマに、フィールドワークを中心とした学びを展開している。ここではフィールドワークでの活動内容を紹介する。

【聞き取りとレポート】

基本はインタビューとレポートである。最初は質問の仕方に戸惑いがあり、質問をすることが少なかつたが、回数をこなすごとに積極的に多くの質問をすることができるようになった。

自信につながった。レポートはタブレットPCを利用してグループで



インタビューの様子

共同して作成をしている。【見方・聴き方を鍛える】ただ聞いて、書くだけではない。聞いたことを元に自分でより深く考え、視野



サイクリングフィールドワーク

を広げることが大切である。生徒たちは、写真や録音した音声などで活動を振り返って新たな発見、気づきを得て、今後の活動に生かしていく。

【フィールドで問いを見つ、問いを変える】

フィールドワークは新しい発見の連続である。事前の予想と実際に現場でリサーチに行つて気づいたことによつてテーマを大胆に変更することがある。自分の目で気づいたことはフィールドワークにとつて最も重要なことであり、新しい発見に対して臨機応変に対応していくことが自分たちを成長させる鍵となる。